

総合的な学習の時間の実践

旭川市

総合的な学習
5年

車いすで生活する方々との交流を通して

「共に生きる」

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



車いすバスケットでのプレーを見る機会がありました。子どもたちは、激しく戦う姿を見て、その生きる姿に感動したようです。そこで、実際に車いすを利用している方をゲストティーチャーに招いて交流することで、子どもたちに障がいとは、何かを考えさせることにしました。また、障がい者を支えている人とも交流しあいながら、それぞれがもっているよさや可能性にふれ、互いに向上心をもって生きることの素晴らしさを考えさせていきました。

学習活動の流れ（34時間）

車いすを体験してみよう（12）

- ・車いすで生活するってどんなことだろう
- ・学校にある車いすを借りて校内で乗ってみよう
- ・段差があると大変だね
- ・毎日どのように生活しているのかな
- ・校外でも体験してみよう、思うように進めないね
- ・車いすが利用しやすい施設があるんだね
- ・実際に車いすを使って生活している方に聞いてみよう
- ・不便なことは工夫して生活しているんだね
- ・車いすに乗って色々なスポーツもやっているんだ

障がいをもちろんがんばっている人を探そう（14）

- ・車いすでできるスポーツはたくさんあるんだね
- ・障がいがあっても努力している人がたくさんいるんだね
- ・車いすを使って生活している方に考えを聞いてもらおう

学習してきたことを交流しよう（8）

- ・こんな旭川になればいいな
- ・○○さんのように自分も目標をもってがんばりたい
- ・障がいのある人とも進んで交流できる自分になりたい
- ・困ったことがあれば自分にできることをやろう

パラリンピックに出場した方との交流を通して、工夫して生活していることや目標をもって生活していることがわかりました。

施設や人との交流において「やさしい旭川市」を目指すことの大切さが発表交流されました。

校内だけの車いす体験に終わらず、校外での体験を組み入れました。新しい発見は子どもたちの意欲を増すきっかけとなりました。



車椅子体験

教材・活動の Point!



1. 学びを支える車いす体験

車いすを利用している方々を見たことはあっても、実際に乗ったことがある児童はほとんどいません。車いすを利用して気が付くことや見えてくることがたくさんあります。実際に車いす体験をすることで、車いすを利用する方々についての理解につながり、課題解決を進めていく上で学びを支える共通体験になっていきます。

2. 課題意識を連続させるゲストティーチャーの活用

実際に車いす体験をすることは、一人一人の学びを支えていくことにつながりますが、それだけでは追究意欲は持続しません。そこで、活動の節目においてゲストティーチャーを活用し、子どもの学習活動に対する評価や新たな視点を与えてもらいました。お話を聞くだけでも、課題意識を連続させる手立てになります。

